



平成28年10月

岐阜県立瑞浪高校

首都圏同窓会報



第32号

● 第二の人生も 頑張っています



瑞浪高校首都圏同窓会会長
小栗清吾 (S33年卒)

皆さんこんにちは。昨年の総会で会長を拜命してから、早いものでもう一年余が過ぎました。今更ご挨拶でもありませんが、少しい自己紹介をさせていただきます。

私は、昭和十四年に日吉で生まれました。もちろん合併して瑞浪市になる前、岐阜県土岐郡日吉村の時代です。子供の頃、瑞浪町は全くの別世界で、「瑞浪へ出かける」のはめったにない出来事でした。

日吉中学校を卒業して瑞浪高校へ入学したのは昭和三十年です。この年の四月に「土岐高校」から「瑞浪高校」へ校名変更になりましたから、いわば「瑞浪高校一期生」ということになりましたか。

同級生には、後に市長になった高嶋芳男君、市議会議員・同窓会会長になった市川晴宣君がいました。その他にも後に立派な社会的地位をしめるようになる人がたくさんいました。級友に恵まれたと思いますが、

同時に瑞浪高校の充実期だったと言えるかも知れません。

部活はバレーボール部でした。もちろん当時は九人制です。私は中衛のライトをやっていました。これがどうしようもなく下手くそで、スパイクを打ってもまず入らない。時々味方の前衛にぶつける始末で、いま思い出しても冷や汗が出ます。

名古屋大学を卒業して三菱銀行に入りました。志を持って金融業を選んだわけではなく、大学の先輩のリクルートに乗ったという安易な動機です。新聞などで見ますと、近頃の学生は、自分の適性や将来像を見据えて、真剣に会社選びをしているようで、それに比べるとずいぶんいい加減なことでした。

銀行員は転勤が多い職業で、だいたい二、三年に一度転勤になります。私は全部で十二回転勤しました。中には本部の三階から四階へという超短距離もありましたが、札幌、東京、名古屋、大阪と日本各地を廻りました。今から思えばいい経験だったと思います。大阪以外は家族同伴でしたから、転校させられる子供には申し訳ないことでした。

先ほど、志を持って職業を選んだわけではないと書きましたが、定年後の第二の人生は少しばかり志を持って過ごしています。この会報にも何度か書かせていただきましたが、「古川柳」(「江戸川柳」とも)というものを勉強して約二十五年になりました。

す。いま「サラリーマン川柳」など人気があります。川柳という文芸が始まったのは江戸時代です。その頃の句(古川柳)が現在も記録として数多く残っています。(データベースには約四〇万句収録)、それを解釈したり分類したりして勉強しているわけです。

非常にニツチな世界で、大学などでもあまり研究されていません。それで私のような素人の好事家が大きな顔をすることができるわけで、これまでに平凡社の依頼で「はじめの江戸川柳」、「江戸川柳おもしろ偉人伝一〇〇」、「男と女の江戸川柳」(いずれも「平凡社新書」)の三冊を上梓しました。一冊目は入門書、二冊目は歴史上の人物を詠んだ句を集めたもの、三冊目は少々エッチな句をご紹介した本です。大きな本屋さんへ行けば、まだ棚にあると思いますので、立ち読みでもしていただければ幸いです。時々講演を頼まれることもあります。講演後のアンケートを見ますと、お世辞かも知れませんが「面白かった」と思っていただけようです。江戸時代の古典ですから最初は取っつきにくいですが、慣れてくると奥が深く面白いです。

ちょっと宣伝になってしまいましたが、最後にこれからも楽しい同窓会にするべく努力をしたいと思っていますので、ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

親の意見と冷や酒



瑞浪高校首都圏同窓会顧問
安藤速雄 (S25年卒)

子供の頃おやじはよく中国の昔話をしてくれた。火鉢を囲んで話を聞くのは楽しみだった。「臥薪嘗胆」「鶏鳴狗盗」「和氏の璧」「烏江」など面白い話を選んで話してくれたが、「四面楚歌」、「鴻門の会」には次のようなエピソードもあって忘れ難い。「項王の軍垓下に壁す。兵少く食盡く……」に始まる「四面楚歌」の最後の場面で、項羽が歌う「時に利あらず、難逃かず、難逃かざるを奈何んせん、虞や虞や若を奈何んせん。」のスイスイ、グヤグヤがおかしくて、笑いころげて、キセルで頭をぶたれたこと。「鴻門の会」では「肛門が痒いか？」とシャレて、「くそたわけ」と叱られた。「くそ」がついて似たようなものだが……。おやじはとにかく史記が好きで、小学高学年から高校にかけて「史

記を読め」「史記を読め」とよくいわれた。しかし「史記」の本は、和綴のものは白文だったし、滝川亀太郎博士の「会註考証」は返り点つきの版だったが、送り仮名がなく、註釈も漢文で、結局長続きしなかった。大学に入って間もなく、中島敦の「李陵」を読んで、これにはしびれた。格調高い名文に彩られた、名将の数奇な運命と、この李陵を弁護したために宮刑に処された司馬遷が、筆舌に尽し難い屈辱に耐えながら、如何にして「史記」の完成に取組んだかを描いたこの名作に出会って、再び「史記」への衝動にかられたが、この時期忙しくてその余裕がなかった。

結局、私が「史記」を読み始めるのは、これより遙か後の五十に近くなってからである。次のような出会いがきっかけとなった。

大阪北新地に、剣道の達人が経営する「作州武蔵」という小料理屋があった。そこで俵萌子さんの紹介で司馬遷太郎氏と俵さん、私と私の先輩の四人で飲んだことがある。その時司馬さんは「本名は福田……で司馬遷太郎はペンネーム、司馬遷は私のアイドルで遼太郎は遠く及ばない男という意味だ」と語った。それで私も父のことや李陵の感想などを話すと、そこからは専ら「史記」と「司馬遷」の話になっ

た。司馬さんが特に強調したのは、「史記」は歴史書としてすぐれているだけでなく、文学としても超一級だということ。司馬遷は宮中の膨大な資料を自由に活用できる立場にあったが、それだけにたよらず自らの足で中国全域を歩いて、各地の史料を集めた。これは古代中国にあつて容易ならぬことで頭が下がる。これは歴史小説を書く上でも欠くべからざるスタンスで、自分もモットーとしている。等々である。そして私に対して、「あなたもお父さんの云うことをすなおに聞いていけば、今ごろ天下を取っていたかも知れないよ」と云った。加えて俵さんも「親の心、子知らずね」と来た。俵さんは私と同年、小僧扱いされるいわれはないのだが、まことにその通りではある。

史記を読み始めて三十数年になるが、なかなか前に進まない。訳本を素読するだけなら捗るが、史記は名にし負う名文である。つとめて漢文で味わいたい。註釈を要する場面も少なくない。紀伝体だから年代順になっていないし、人物の相関関係等も整理しながら読む必要がある。全一三〇巻、五二万六〇〇〇字を読み終えるのはいつの日か、日暮れて道遠し、親の意見と冷や酒はあとになって効いてくる。とはこのことか……。



第22回総会 (平成28年6月4日) 学士会館

経歴は不必要で 白紙から…



瑞浪高校首都圏同窓会顧問
中島千尋 (S32年卒)

私は瑞浪市土岐町栄町出身
1938年(昭和13年)9月4日生
まれの78才になりました。丁度誕生
日の前日の「瑞浪高校首都圏同窓会
役員会」の席で、自分の感ずるところ
で会報記事を書いてほしいと依頼
を受けました。

最近の生活リズムの中でテレビで
は、BSニュース・BSフジプラ
イムニュース・BS日テレ久米書
店・森村誠一、横山秀夫サスペン
ス・スポーツ(プロ野球、MLB、
LPGA、PGA、など)・将棋など。
NHKラジオでは深夜便・健康ライ
フ・社会の見方、私の視点・サタデー
エッセー・著者に聞きたい本のツボ・
音楽の泉などで見聞・雑学を吸収し
ています。

さて、サラリーマン会社人生を終

えて、13年が経ちましたが今は地域
活動に勤しんでいます。地域の自治
会・公民館・社会福祉協議会・老人
会などの役職を歴任し、現在でも市
社会福祉協議会はじめ十数会の役職
を務めています。少しずつ降りてい
かなければと考えていますが思うに
まかせないままです。地域では
まちづくりや福祉活動のためにいろ
んな人財を求めています。

65才以上ぐらいで会社人生からリ
セットできた方は是非地域活動に参
画してください。リセットがなぜ必
要かは地域の活動ではあらゆる多
様な人々と交流しますので、今ま
での経験・体験は必要ですが、経歴
は不必要で白紙から新たなスタート
が求められます。

次に私が交流し、協働している行
政(市役所・区役所)について意見
を添えますと、先ずその働き方を考
察してみますと、働く人の意識が「時
間管理」にあり、「仕事の品質」「労
働生産性」の評価が一般的に低いよ
うに思われます。

「税金」に対する考え方は東京都の
実例にみられるように非常に甘い。
自分たちの給料が税金で賄われてい
ること、予算執行についても安全性・
投資目的・対投資効果分析・など広
い意味での原価意識に薄いこと、ど

の地域に何を情報公開すべきかなど
着眼点・行政目線に大いなるズレを
感じています。

私が身近に取り組んでいる福祉政
策については、2015年の医療費
総額が41、5兆円に急増したとの新
聞記事が出ていました。これは高齢
化の進展と医療技術の高度化がコス
ト増につながった要因であります。
これからも、団塊世代を含むさらな
る高齢化の急進・三大成人病及び認
知症患者の増加など医療環境の悪化
は止めようのない状況にあります。
現在の福祉政策はあまりにも困りご
とや相談ごとを探し過ぎでその施策
が高齢者の総病人化や福祉業務の増
加輻輳化に近づいていると見えます。
健康の維持増進で健康寿命を伸ばし
たり、まちの和により楽しい時間を
過ごしたり、とプラス志向の施策(福
祉担い手の育成・たまり場の設置・
健康相談員の配置など)など別の回
路に投資してはいかかかと痛感して
います。

まとまりのない雑駁文で悪しから
ずご容赦ください。



第22回総会(平成28年6月4日) 学士会館



瑞浪高校首都圏同窓会 第22回総会 (平成28年6月4日：学士会館)

第22回総会のご報告

- 会員参加者：35名
(男性29名・女性：6名)
- ご来賓参加者：7名
瑞浪市副市長 勝 康弘 様
瑞浪高校校長 小池泰彦 先生
同・渉外部長 横井雅代 先生
瑞浪高校同窓会会長 加藤健二 様
同・副会長 田中 定 様
瑞浪市連合自治会副会長 伊藤修二 様
恵那高校同窓会会長 伊藤和徳 様



瑞浪高校首都圏同窓会会計報告

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日 単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費	344,000	総会費用	514,676
寄付・祝儀	150,000	通信費	25,850
預金利子その他	6,277	事務費	0
		会議費	30,892
		慶弔・交際費	0
		印刷・コピー費	1,940
前期よりの繰越金	1,149,379	次期繰越金	1,076,298
合計	1,649,656	合計	1,649,656

22回首都圏同窓会総会レポート

やっとかめ！元気でいりゃあ！(1年ぶりですが)
去る6月4日(土)恒例の首都圏同窓会総会が学士会館で開催され、毎回参加の顔なじみの方、初参加の方、久々に参加の方、来賓の方等にぎやかに故郷瑞浪の高校生時代にタイムスリップ致しました。ご参加の皆様有難うございました。残念ながら参加出来なかった皆様もいつも応援支えて下さいまして有難うございます。

あなたは卒業されて何年経ちますか？真澄(益美)の坂道はあのままでしょうか？土岐の流れにかけ映えているのでしょうか？あの懐かしい時代をふたたび一緒に語りあいませんか？

来年の総会は6月3日(土)12時から学士会館で開催予定です。卒業名簿が個人情報で入手困難になっておりますのでなかなか参加者数も増えない状況ですが、同級生を誘って参加いただければ嬉しいのです。ここ2年女性の参加が減っております。女性が活躍・元気な時代なのに残念です。ご主人のことはうっちゃって(失礼)熟女の笑顔を見せてください。

では来年またお目にかかりましょう。秋も深まってきました。ご自愛専一に。

(幹事長 宮田 栄子)

同窓生の高嶋芳男さんが瑞浪市名誉市民に！



瑞浪高校を昭和33年に卒業された前瑞浪市長高嶋芳男さんを瑞浪市名誉市民として顕彰する瑞浪市名誉市民顕彰式が9月28日、瑞浪市役所で行われました。

式典では、水野光二市長から推挙状と名誉市民章および記念品を受け取られたのち、「長年にわたり皆様からご指導・ご厚情をいただいた賜物であり、まさに人と人との出会いが原点でした。この榮譽に恥じないように、これからも精進したい」と喜びを語られました。尚、今年の春の叙勲では旭日小綬章を受章されました。

首都圏同窓会 小栗会長から当日に祝電をお送りしました。